

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

Vol 25
(夏号：7)
2006. 7. 10
A N C : News Letter



「ノボタン」 H18年6月撮影

今年の梅雨は6月に入ってから降り始め、平年の2倍の降雨量と報道されるほどに大雨が降り続けました。梅雨明けは平年よりも一週間程早くなりましたが、そのぶん真夏の気候へも早めに変わってしまいました。うだるような暑さに「暑いですね」が挨拶になっています。梅雨の時のような大雨は困りますが、時には雨の恵みが欲しいと思っています。先月下旬に季節の花を探しに山地への林道に行ってきました。平地では梅雨時期に見かけるノボタンの花が道沿いの所々にまだ綺麗に咲いていました。また、ゴンズイの木は紅色の実をたくさんつけていて、真夏の青空に負けないくらいに鮮やかでした。

山の林道でも開けた所では太陽の光がサンサンと降りそそいでいて、平地と変わらない暑さでしたが、木の葉で覆われている所はとても涼しくさわやかでした。

厳しい暑さに室内ではつついクーラーに頼りがちですが、休日などには自然散歩へ出かけて、夏の生き物観察などされてみてはいかがでしょうか。

お知らせ



奄美野生生物保護センターと共催

☆クラフト教室「海辺で藍染めをしよう」

日 時：平成18年7月27日（木） 10:00～12:00

場 所：よしかわ工房（瀬戸内町）

藍染めを体験します。どんな作品になるか楽しみです。

☆自然観察会「クロボシセセリを探そう」

日 時：平成18年8月4日（金） 10:00～12:00

場 所：奄美パーク（奄美市笠利町）

ヤシの葉にいるチョウや幼虫を観察しましょう。

☆自然観察会「磯で海遊びをしよう」

日 時：平成18年8月9日（水） 10:00～12:00

場 所：あやまる岬海岸（笠利町）

磯で遊びながら貝などの生き物を見つけましょう。

☆自然観察会「夏の夜のホタル観察会」

日 時：平成18年8月25日（金） 19:00～21:00

場 所：奄美自然観察の森（龍郷町）

暗闇で光るホタルを観察しましょう

- *・定員になりしだい締め切らせていただきます。
- ・保護者同伴でご参加ください。
- ・観察会時の飲みもの等は各自で準備してください。

※自然観察会・クラフト教室への申し込み先

- ・奄美野生生物保護センター TEL 0997-55-8620
- ・奄美自然体験活動推進協議会 FAX 0997-55-8621

協議会活動報告

企画展：「マダガスカルと奄美—その成り立ちと固有の生き物たち—」

日 時：平成18年4月29日(土)～5月31日(水)

場 所：奄美野生生物保護センター(企画展示室)

講演会：「マダガスカル島の自然・人・文化」

日 時：平成18年4月29日(土) 14:00～15:30

場 所：講演会・センター企画展示室

講 師：水田 拓(奄美野生生物保護センター自然保護専門員)

奄美野生生物保護センター開館6周年記念として、4月29日～5月31日までの間、企画展「マダガスカルと奄美—その成り立ちと固有の生き物たち」を行いました。

企画展初日の4月29日には、4月からセンターに勤務している自然保護専門員の水田さんが「マダガスカル島の自然・人・文化」と題して講演を行いました。

サンコウチョウの調査で何度も渡ったマダガスカル島の貴重な生き物や食べ物、気候などについてスライドを使いながら説明してくれました。

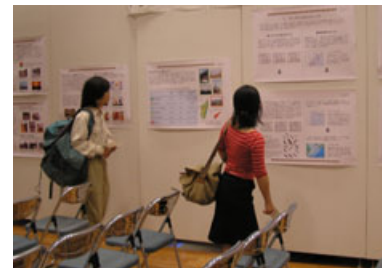
面積は日本の1.6倍、奄美の820倍もあり、世界で4番目に大きな島だそうです。アフリカ大陸に近いので「暑い島」というようなイメージがありますが、地域によっては奄美よりも温度の低い所もあるそうです。

両島とも大陸から切り離された島ですが、奄美と違うのは1.5億年とはるかに古い時代に大陸から離れて以来一度も陸続きになることのなかった島ということです。

奄美との共通点は固有種が多く生息している島ということです。魚類，両生類，爬虫類は90%、鳥類は50%、哺乳類は80%が固有種なのだそうです。どちらも人間の活動の影響で固有種が減少してきているので、奄美の自然も大切して欲しいと話しました。

講演を聞かれた方からは「マダガスカルと奄美の自然を次世代にも残さないといけないと感じた」「めったに見られない貴重な写真をたくさん見せていただいた」などの感想が寄せられました。

企画展と講演会



講演会：「奄美の森のユニークなカエル～その生態をかいまみる～」

日時：平成18年6月18日(日)17:00～19:00

場所：奄美市立奄美博物館

講師：岩井紀子「オットンガエルの生態 ～分布・年齢・繁殖～」

：大海昌平「イシカワガエルの生態 ～繁殖・オタマジャクシの成長」

：亘 悠哉「捕食者としてのカエル、餌としてのカエル」

6月18日(日)に奄美博物館で講演会「奄美の森のユニークなカエル」が開催され、奄美両生類研究会の3名の方が講演を行いました。

岩井さんは奄美諸島に生息しているカエルは9種類で、うち3種類は奄美にだけいると話し、鳴き声などを流した後に「オットンガエルの生態～分布・年齢・繁殖～」について講演しました。オットンガエルの調査を2004年6月～2005年10月の間に行った結果、林道よりも沢で目撃することが多く、青久には多くいるが金作原では見られないと話しました。

鳴くのはオスで、年齢については3歳で成熟し、平均年齢は4歳、最長約7歳まで生きているそうです。産卵は平らな水場に掘られた穴で約60回に分けて産卵し、1,500～2,000個の卵を産むそうです。産卵の様子を写した貴重な映像を見せてくれました。

大海さんは「イシカワガエルの生態、繁殖、オタマジャクシの成長」について講演しました。

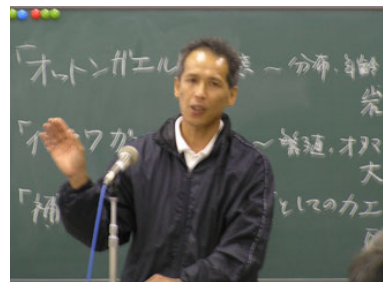
オタマジャクシの大きさは同じ場所で3種類あり、大きいオタマジャクシは2度越冬した可能性もあるとのことでした。産卵は約15分をかけて400～500個の卵を産卵すると話されました。

亘さんは「捕食者としてのカエル、餌としてのカエル」と題して講演しました。

調査の結果、オットンガエルの餌はサワガニ、マダラカマドウマ、オオゲジなどであること、逆にカエル類を食べているものはハブやヒメハブ、アカマタなどのヘビ類やマングースに食べられていると話しました。マングースが定着している地域ではカエルがいなくなっている、マングースの影響が大きいと話していました。

亘さんは、ガラスヒバアが捕らえたアマミアオガエルをオットンガエルが奪うところを撮影した珍しい映像を見せてくれました。

講演会の様子



新聞記事

4/18-5/1 奄美5
マダガスカル島の自然などについて講演する水田拓自然保護専門員(右)



大和村 野生生物保護センター

奄美野生生物保護センターの開所六周年を記念した企画展「マダガスカル奄美との結び立ちと固有の生物たち」が十九日、大和村の同センターで始まった。自然保護専門員の水田拓さん(右)が記念講演し、「マダガスカル島と奄美は固有種がいっぱい、共通点を持つ。世界に誇れる自然を大切にしたい」と語った。

マダガスカルと比較展示

島として世界で四番目に大きいマダガスカル島は、一億五千万年前、大陸移動でインド大陸から分かれ、独自の進化を遂げた。日本でもマダガスカルと比較できる大きな奄美大島も、十万年ほど前に地殻変動や海面の上昇で、島の大部分が陸に沈み、残った島は、今もマダガスカルと似た生態系を維持している。企画展は島の成立や生物の進化や自然を大切にし、五月まで。

知られざるカエルの世界報告

オットンガエル寿命7年?

外来種・マングースも捕食



講演会では、研究に関する質問も多く寄せられた

両生類研究会が講演会

奄美市産の両生類研究十八日、奄美に生息するカエルを研究する奄美両生類研究会(代表者水田拓)による講演会「奄美のカエルの生態とオットンガエルとシカワガエルを中心に」が、大和村野鳥センターで開かれた。参加者は、奄美大島のオットンガエルについて、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。オットンガエルは、奄美大島の固有種で、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。

オットンガエルは、奄美大島の固有種で、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。オットンガエルは、奄美大島の固有種で、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。

奄美・カエル講演会



カエルの生態について調査成果が報告された講演会

奄美市産のカエルを研究する奄美両生類研究会(代表者水田拓)による講演会「奄美のカエルの生態とオットンガエルとシカワガエルを中心に」が、大和村野鳥センターで開かれた。参加者は、奄美大島のオットンガエルについて、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。

マングースが捕食、生息減

オシカワ 生態の魅力や希少性評価

奄美市産のカエルを研究する奄美両生類研究会(代表者水田拓)による講演会「奄美のカエルの生態とオットンガエルとシカワガエルを中心に」が、大和村野鳥センターで開かれた。参加者は、奄美大島のオットンガエルについて、寿命が七年前に発見されたオットンガエルと比べて、寿命が短く、捕食されるリスクが高いと報告された。

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

オオトラツグミの子育ての季節

春は鳥たちにとって子育ての季節です。多くの鳥は、卵を産み雛を育てるための場所として春先に巣を作ります。鳥の巣は、単にそこで生活するためのものではなく、自分自身の子供を次世代に残すよう「子育て」をするための場所なのです。鳥の巣の形や巣を作る場所は、種によって本当にさまざまです。また、巣作りや抱卵（卵を温める行動）、雛への餌やりといった仕事を、雄と雌がどれくらいの割合で分担するのかも、種によってずいぶん異なっています。今回は、私たちがこの4月から調査をしているオオトラツグミの子育てについて紹介したいと思います。



奄美の希少種オオトラツグミ（中村友洋氏撮影）

ご存じの通り、オオトラツグミは奄美大島と加計呂麻島にしかいないたいへん珍しい鳥です。個体数は全部で数百羽ほどではないかと考えられています。数が少なく、深い森に住み、しかも姿の見えにくい鳥ですから、巣を探し出すのはなかなか容易ではありません。実際、この鳥の巣はこれまで数例しか見つかっていませんでした。それでも頑張ってみると、今シーズンは奄美大島の各地で3つの巣を見つけることができました。

巣はお椀型で、外部は緑色のコケでおおわれており、内部には細くて柔らかい木の根が敷き詰められていました。外径が20～25cm、高さ10cm前後とかなり大型です。このようなお椀型の巣が、木の枝の又や岩棚などにのっかるように作られています。なかには樹木に着生したオオタニワタリの中に作られた巣もあり、この鳥はいろいろなところを巣場所として選んでいることがわかってきました。

巣が見つかったのはいずれも太い木が多いうっそうとした森林の中でした。また巣の近くには沢が流れていることが多いということもわかりました。おそらく、そのような湿った場所には餌となるミミズが多くいるのでしょう。

巣の高さは1.5mから10mくらいですが、沢沿いの斜面に作られることが多いので、斜面の上の方からだと目の高さに見えることもあります。オオトラツグミは予想外に低い位置に巣を作っていたのです。

今年見つけた巣は、どの巣も子育てが終わった後だったので、中身はからっぽだったので、残念ながら親の繁殖行動を観察することはできませんでした。これまでに報告された観察例では、オオトラツグミは雌雄共同で雛への餌やりを行っているようです。抱卵を雌雄どちらが行うかは不明ですが、抱卵中の個体に別の個体が餌を運んで与えるということも観察されています。近縁種のトラツグミでは、巣作りと抱卵は雌のみが行うそうです。オオトラ

ツグミの巣作りも雌だけが行うのだとすると、大量のコケを雌だけで運んで巣の形にするのはたいへんな作業だと思います。その間雄は何をしているのでしょうか。わかりませんが、もしかしたら雄は大きな声でさえずって縄張りを守るのに忙しいのかもしれない。

とにかく、オオトラツグミの繁殖行動についてはまだまだわからないことばかりです。どのような場所に巣を作り、どこでどんな餌をとって子育てをしているのかななどを詳しく調べることで、この希少な鳥を保護す

るために具体的にどのような方策を立てればよいかかわってくるかもしれません。来年こそは繁殖中の巣を見つけて観察を行い、少しでもこの鳥の生態を解明することができればと考えています。

最後に、オオトラツグミは一度使った巣を次回もう一度使うということをしません。巣は一年も経つと雨や風を受けて壊れてしまうからです。そこで、今年見つけた使用済みの巣を2つ回収し、野生生物保護センターに持ち帰りました。近いうちにセンターに展示しようと考えています。オオトラツグミの巣が見られる施設なんて、世界中探しても他にはありません。皆さんもぜひこの貴重な鳥の巣を見にセンターに遊びに来てください。

(センター・水田)

お知らせ：

この連載は野生生物保護センターの中村友洋自然保護専門員が担当してきましたが、中村の退職に伴い、この号以降は中村の後任の水田拓とアクティブレンジャーの永井弓子・迫田拓の3名が交代で担当することになります。どうぞよろしくお願ひします。



森の中で見つけたオオトラツグミの巣。斜めに生えた木の又に、コケを使って作られている。

(センター・永井撮影)

○ 奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）

日 時:2006,6,28 20:30
種 名:アマミノクロウサギ
発見場所:非公開
状 況:道路上にいた
目 撃者: (高橋)

日 時:2006,6,16 23:10
種 名:イシカワガエル
発見場所:非公開
状 況:じっとしていた
目 撃者: (水田)

日 時:2006,6,4 22:00
種 名:シイトモンシタケ
発見場所:龍郷町 観祭の森
状 況:光ってた
目 撃者: (迫田)

日 時:2006,6,13 12:40
種 名:オオトラグミの巣
発見場所:非公開
状 況:木の又にあった
目 撃者:(水田・迫田・永井)

日 時:2006,6,19 11:00
種 名:ハジロクロハラアジサシ
発見場所:龍郷町 農耕地
状 況:杭に止まっていた
目 撃者: (水田)

日 時:2006,6,20 8:50
種 名:ナゴラン
発見場所:非公開
状 況:花が咲いていた
目 撃者: (水田)

日 時:2006,6,9 11:30
種 名:サクララン
発見場所:大和村 林内
状 況:花が咲いていた
目 撃者: (水田)

日 時:2006,6,30 11:30
種 名:スジブヒラタクワガタ
発見場所:瀬戸内町 林内
状 況:木の根のくぼみにいた
目 撃者: (迫田)

日 時:2006,6,24 19:00
種 名:ハブ
発見場所:小湊の砂浜
状 況:どくろを巻いていた
目 撃者: (永井)

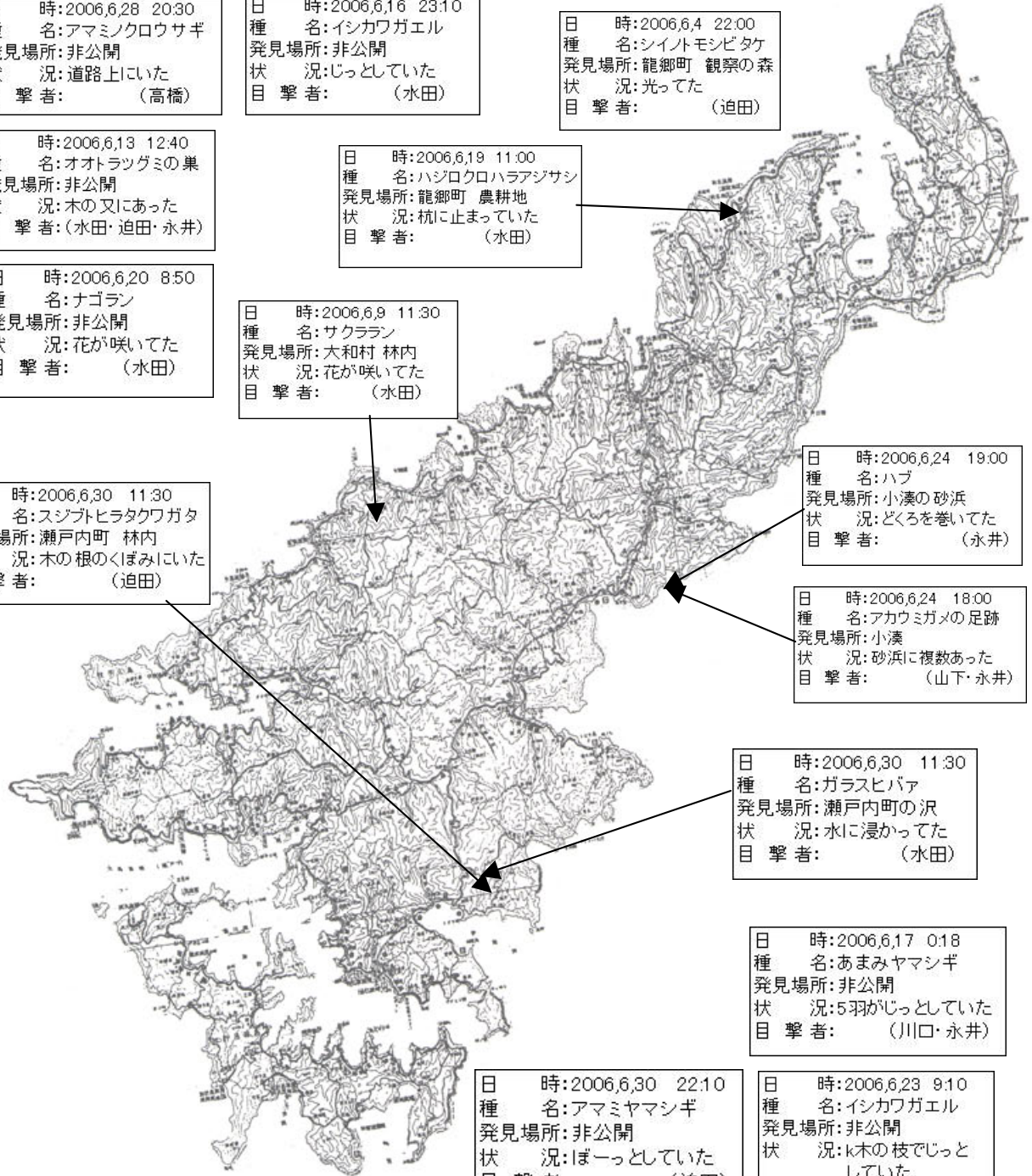
日 時:2006,6,24 18:00
種 名:アカウミガメの足跡
発見場所:小湊
状 況:砂浜に複数あった
目 撃者: (山下・永井)

日 時:2006,6,30 11:30
種 名:ガラスヒバア
発見場所:瀬戸内町の沢
状 況:水に浸かっていた
目 撃者: (水田)

日 時:2006,6,17 0:18
種 名:あまみやましぎ
発見場所:非公開
状 況:5羽がじっとしていた
目 撃者: (川口・永井)

日 時:2006,6,30 22:10
種 名:アマミヤマシギ
発見場所:非公開
状 況:ぼーっとしていた
目 撃者: (迫田)

日 時:2006,6,23 9:10
種 名:イシカワガエル
発見場所:非公開
状 況:k木の枝でじっとしていた
目 撃者: (永井)

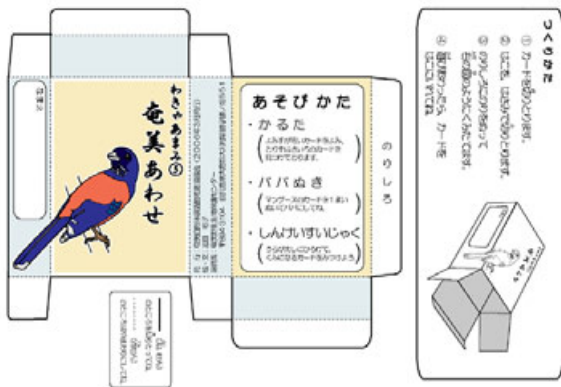


1:250,000

わきやあまみ⑤「奄美あわせ」を作成しました。

協議会では、平成13年度に「わきやあまみ」①を作成して以来、毎年度「わきやあまみ」を作成し、奄美の各小学校へ配布しております。その第5弾として平成17年度の活動では、わきやあまみ⑤「奄美あわせ」を小学校高学年用に作成しました。奄美の森や里、川で生きている動物たちをカードゲームなどをして楽しみながら覚えてもらえたらと思っています。

各小学校(4年生, 5年生, 6年生)へは各市町村の教育委員会から配布されることになっています。



夏にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥

：山と溪谷社・絶滅危惧植物図鑑

「ハジロクロハラアジサシ」チドリ目 カモメ科 全長24cm 旅鳥

夏羽では、頭部、胸、背、翼の下面雨覆いなどが黒く、翼の上面や尾、下尾筒（おしりの付近）は白い。嘴は暗赤色で短く、足は赤く尾は短い。冬羽では、下面全体が白く、後頭から目の後方に黒班があり、背と翼の上面は灰色である。幼鳥は冬羽に似ているが、背が黒褐色である。旅鳥として全国の干潟や水田などに渡来し、飛びながら餌を探し、ずっと舞い下りくちばしでつまむように餌をとる。奄美での春秋の渡りの時期に数羽が観察されている。

鳴き声：ギリッ ギリッ、など

記録時期：5月、6月、9月



「ナゴラン」ラン科 ナゴラン属 絶滅危惧1A類

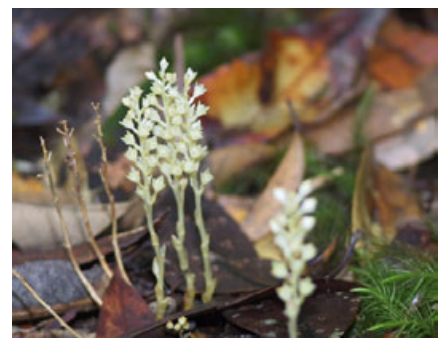
暖温帯の樹上に着生する常緑のラン。

草姿はカシノキランにやや似ているが、全体に大形で、葉が規則正しい2列ではなく、やや不規則に密集して6個程度つく。葉は長さ約10cm、幅約3cm。6月～8月、葉の基部付近から長さ約15cmの花茎を出し、花を10個ほどつける。花は直径約5cm、全体に乳白色。伊豆諸島から沖縄、朝鮮半島南部に分布する。園芸用の採集により各地で絶滅状態である。



「サクライソウ」ユリ科 サクライソウ属

常緑広葉樹林やヒノキ林などの林床に生える多年草。乾燥しすぎず適度な湿り気が保たれる環境が必要である。腐生植物で葉緑素を持たず、全体が淡黄色をしており、根に菌類が入って共生する。茎は高さ10～20cm、直径1mm程度で、少数の鱗片葉をつける。5月頃に茎が伸びてきて、7月に開花する。花は5～20個が総状につき、長さ数ミリの花柄の先に斜め上向きに開く。花の直径は約3mm。やや暗い林の中に生育するうえ、小さくてめだたない。



「スジブトヒラタクワガタ」コウチュウ目 クワガタムシ科

生物学的特性：体色は艶消しの黒色。♂♀ともに上翅に点刻があり明瞭な縦筋がある。上翅に明瞭なスジが見られるのは、本種を含めてクワガタでは世界に数種のみである。成虫で越冬するので、野外でも早春から出現するが、多くない。新成虫の出現は5月中旬より6月にかけてみられる。飼育下では数年生存する。



生息環境：山地のシイ、カシ等の原生林から、集落のモクマオウ海岸林までと、環境が大きく異なるさまざまな場所に広く生息するが、山地の方が生息数は多い。

分布の概要：奄美諸島の固有種

県内での分布：奄美大島，加計呂麻島，請島，徳之島

平成18年度協議会総会の報告

平成18年度の協議会総会が5月25日(木)に奄美会館で開催されました。

- 議題
- 1, 平成17年度活動経過報告について
 - 2, 平成17年度収支決算の承認について
 - 3, 監査報告
 - 4, 規約の一部改正について
 - 5, 平成18年度活動計画(案)について
 - 6, 平成18年度収支予算(案)について
 - 7, 役員改正について

* 平成18年度の活動計画，平成18年度の収支予算が承認されました。

後 記

5月に行われた総会で、平成18年度～19年度の2ヶ年間、協議会の副会長を奄美市と和泊町が、監事を宇検村と喜界町が引き受けてくださいました。宜しくお願い致します。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜 100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

(連絡・書類等送付先)

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621